



平成24年度 びわ湖セミナー

環境リスクを考える

～センターの研究を通して～

日時： 平成24年**7月25日**(水)
13:00～16:30 (受付開始 12:30～)
場所： コラボしが21 3階 大会議室
参加： **無料** (事前申込制・先着150名)
主催： 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

放射性物質等の環境中への拡散に伴うリスクに関心が高まっている今、私たちは環境問題によってもたらされるリスクをどのように把握し伝えようとしているのかを、環境リスク分野の専門家のご講演や琵琶湖環境科学研究センターが進めている取組を通して、県民の皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。

13:00 開会挨拶



13:05～13:55 基調講演

「化学物質の管理とリスクコミュニケーション」

北野 大 氏(明治大学大学院 理工学研究科 教授)

化学物質の環境リスク管理について解説いただくとともに、安全・安心な社会に向けて行政や県民がどのようにリスクコミュニケーションを図っていけばよいのかについて、専門家の立場からお話しいただきます。

13:55～14:55 センターからの発表

(1) 「琵琶湖水における化学物質のリスク評価の取組について」

環境監視部門 主任専門員 津田 泰三

(2) 「原子力発電所事故を想定した環境リスクの把握について」

① 大気環境への拡散予測について 環境監視部門 主任主査 園 正

② 琵琶湖への影響予測にかかるアプローチについて

総合解析部門 研究員 佐藤 祐一



14:55～15:15 環境リスク管理と研究の方向性

森澤 眞輔 氏(京都大学iPS細胞研究所 所長補佐/特定拠点教授)

環境リスクをいかに管理していくのかについてお話しいただくとともに、センターの研究についてのコメントをいただきます。



15:30～16:30 パネルディスカッション

「環境リスクへの向き合い方を考える」

環境リスクの研究をどのように進めるか、そこで得られたデータをいかに評価し正しく伝えるかを考えます。特に放射性物質の琵琶湖への影響を予測し、その結果にどう向き合うかを考えたいと思ひます。

北野 大 氏/森澤 眞輔 氏/嘉田 由紀子(滋賀県知事)

司会：内藤 正明 センター長(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

原発事故がもたらす放射性物質の拡散が湖沼とその流域に与える影響について

[福島原発事故による水道水への影響]

- 福島原発での国等の公表データによると、水道水への影響としては、セシウムよりもヨウ素の方が大きい。セシウムもヨウ素も水溶性であるが、セシウムは土壌等に吸着しやすい性質を持ち、浄水場での高い除去率が期待できる一方、ヨウ素は一般的な凝集沈殿処理では分離が難しい。

(福島原発事故の4日後、3月15日に東京都の金町浄水場で放射性ヨウ素が検出され、都水道局は住民に対し、乳児の水道水摂取を控えるよう要請した。)

[チェルノブイリ原発事故等から見た生態系への影響]

- チェルノブイリ原発事故における文献等によれば、セシウムは河川や湖沼の水中の濃度としては急速に減少する一方で、底泥や淡水の魚介類に濃縮しやすい傾向があり、かつ影響が長期に渡ることが分かっている。したがって、湖沼への影響としては、短期的には放射性ヨウ素による飲料水への影響が問題であるが、中長期的には物質に吸着しやすく、底泥等に留まる放射性セシウムによる魚介類をはじめ生態系への影響が最も懸念される。